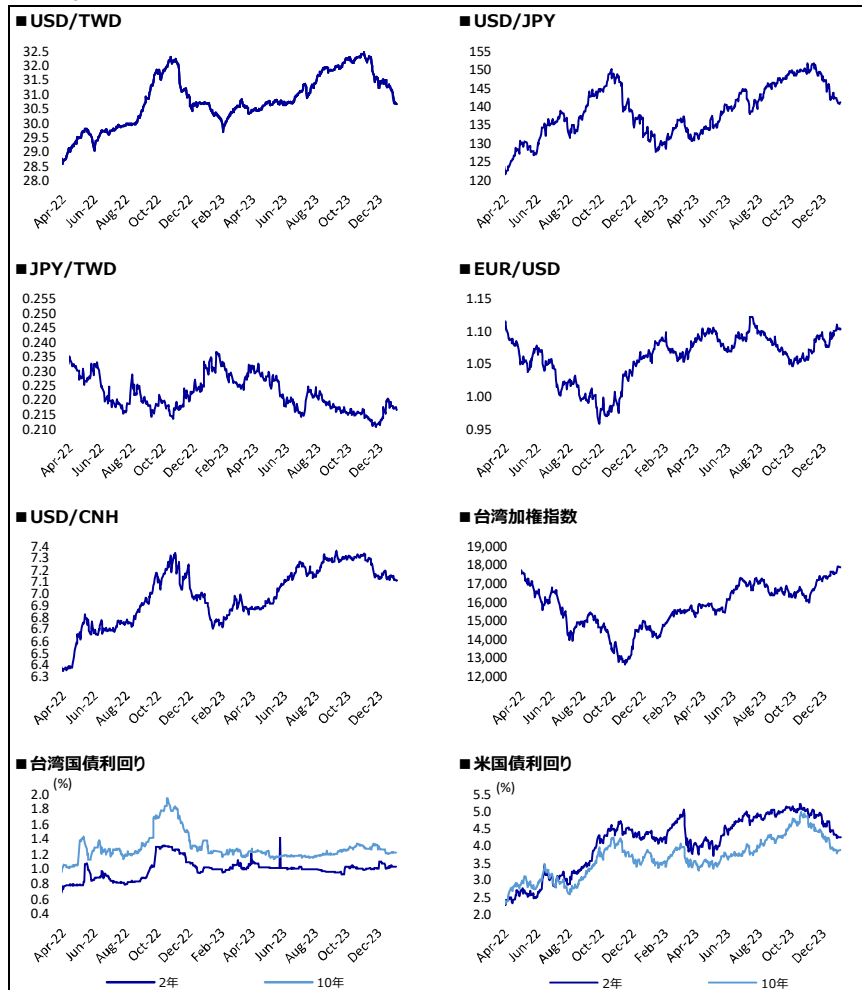


## 市場動向



## 先週の市場動向

■ USD/TWD  
先週のドル/台湾ドルは下落。週初12/25は31.195でオープン後、米金利が低下する中、グローバルにドル安が進んでいたことを背景に台湾ドル買いが優勢となり、31.10台前半で上値重く推移。12/26は、米金利が低下を続けていた他、年末を控え輸出業者によるドル売りが見られたことから、31.00台で上値重く推移した。12/27は、前日の米ハイテク株の上昇を好感し、台湾株の上昇が加速する中、外国人投資家による台湾株買いが見られたことでドル売りが優勢となり、30.80台後半まで下落。12/28は、台湾加権指数が年初来高値を更新する中、外国人投資家による台湾株買いが強く見られた他、輸出業者によるドル売りも後押しとなり、一時30.641まで下落した。12/29は、年末で取引が閑散となる中、ドルを買い支える動きが見られたことを受けて、下落幅をわずかに縮小する展開に。最終的には前週比1.5%ドル安台湾ドル高の30.735で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は854.6億台湾ドル。

■ USD/JPY  
先週のドル/円は下落。週初12/25は142.25でオープン後、米国が休場となる中、材料に乏しく方向感に欠ける展開となり、142円台前半で揉み合いの推移。12/26は、米10月ケースシラー不動産価格指数が発表されると、住宅価格の上昇継続とが確認され、ドル買いが優勢な展開となり142円台半ばで底堅く推移。12/27は東京時間、日銀より発表された金融政策決定会合の主な意見において、特段目新しい材料が確認されなかったことを受け142円台後半で底堅く推移。しかし海外時間に入り、米12月リッチモンド連銀製造業景況感指数が前回対比悪化していたことを受けて米金利低下が加速すると、ドル売りが優勢となり141円台半ばまで下落した。12/28は、米金利の低下を背景にドル売りが続いていたが、海外時間に米11月中古住宅販売仮契約が市場予想を下回る結果となると、ドル売りが一段加速し、一時140.35まで下落した。12/29は、年末で取引が閑散となる中、方向感無く141円台で揉み合いの推移となり、最終的には前週比1.0%ドル安円高の141.01で先週の取引を終了。

## 今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.500-30.800  
今週は上値の重い推移を見込む。2024年は米国における利下げ期待の高まりから、ドル売り圧力が強まりやすい展開となるであろう。台湾12月CPIの結果に注目が集まる。

■ USD/JPY 予想レンジ：138.50-142.50  
今週は上値の重い推移を見込む。日米金融政策の方向感に逆転の兆しがみられる中、ドル円は下落しやすいであろう。米12月雇用統計の結果に注目が集まる。

## 今週の予定

1/1 (MON)	台湾休場、米国休場、日本休場
1/2 (TUE)	台湾12月PMI景況感指数
1/3 (WED)	米12月ISM景況感指数
1/4 (THU)	米12月ADP雇用統計
1/5 (FRI)	台湾12月CPI、米12月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。